

2009年5月8日

2008年度 決算説明資料

. 業績サマリー	P.2
. 2008年度 連結決算について	P.3 ~ 9
. 2009年度 業績予想について	P.10 ~ 14
. 新製品開発状況について	P.15 ~ 25
. その他	P.26 ~ 27

[注意事項]

- 1) 「平成21年3月期 決算短信」並びに本説明資料は、2009年5月8日午後2時に大阪証券取引所及び東京証券取引所において記者発表し、公開しております。また同時刻に、これらの資料は東京証券取引所の「適時開示情報閲覧サービス」に掲載されています。
- 2) 「平成21年3月期 決算短信」並びに本説明資料に記載されている通期の業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が合理的と判断したものであり、リスクや不確実性を含んでおります。
従いまして、実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績予想とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、当社の事業領域をとりまく経済情勢、ドル、ユーロ等の対円為替相場などが含まれます。



田辺三菱製薬

< 目次 >

. 業績サマリー	…	2		
1. 2008年度 業績サマリー	2. 2009年度 業績予想サマリー	3. 配当金	…	2
. 2008年度 連結決算について	…	3 ~ 9		
1. 損益状況	…	3 ~ 5		
損益実績 <参考> 損益実績(制度会計)	セグメント別売上高	…	3	
売上原価 / 販売費及び一般管理費	…	3		
主要製品売上高	…	4		
営業外損益	特別損益	法人税等	…	5
2. 財務状況	…	6 ~ 7		
資産・負債・純資産の状況	主要項目の増減	…	6	
キャッシュ・フロー計算書	設備投資 / 情報システム開発投資	…	7	
減価償却費	…	7		
3. 関係会社	…	8 ~ 9		
関係会社数	主要連結子会社の財務数値・従業員数	…	8	
その他の連結子会社一覧	持分法適用非連結子会社一覧	…	9	
持分法適用関連会社一覧	…	9		
. 2009年度 業績予想について	…	10 ~ 14		
損益予想	セグメント別売上高予想	…	10	
販売費及び一般管理費 / 総人件費予想	…	10		
主要製品売上高予想	…	11		
設備投資予想	情報システム開発投資予想	減価償却費予想	…	12
四半期業績推移(損益計算書)	…	13		
四半期業績推移(主要製品売上高)	…	14		
. 新製品開発状況について(2009年5月8日現在)	…	15 ~ 25		
1. 国内開発状況	…	15 ~ 16		
新規化合物	…	15		
効能追加	…	16		
2. 海外開発状況	…	17		
新規化合物	効能追加	…	17	
3. 導出品の開発状況	…	18		
4. 2008年度第3四半期決算発表時点(2009年1月29日)からの変更点	…	19		
5. 新製品開発状況補足資料(2009年5月8日現在)	…	20 ~ 23		
国内 新規化合物	…	20		
国内 効能追加	…	21		
海外 新規化合物	海外 効能追加	…	22	
海外 導出品	…	23		
< 参考 > 主要医療用医薬品の解説	…	24 ~ 25		
. その他	…	26 ~ 27		
1. 株式の状況	…	26		
発行済株式数	配当金推移	大株主の状況	…	26
所有者別株式数分布状況	外国人持株比率	…	26	
2. その他関連データ	…	27		
従業員数(就業人員数)推移	2008年10月以降のトピックス	…	27	

業績サマリー(単純合算比較)

(億円未満四捨五入)

1. 2008年度 業績サマリー

売上高	4,148 億円	対前期比	53 億円	1.3 %
医薬品事業	3,872 億円	対前期比	77 億円	2.0 %
その他事業	275 億円	対前期比	24 億円	8.0 %

国内医療用医薬品は、昨年4月の薬価改定、診断群別包括支払い(DPC)導入病院の増加、ジェネリック医薬品使用促進策の実施などの影響もあったが、抗ヒトTNF モノクローナル抗体製剤「レミケード」、麻しん風しん混合ワクチン「ミールピック」が大幅に伸長したほか、抗血小板剤「アンブラーグ」、アレルギー性疾患治療剤「タリオン」なども順調に伸び、前期比35億円増の3,354億円となった。

海外医療用医薬品はカルシウム拮抗剤「ヘルベッサ」などの伸長により同16億円増の253億円、一般用医薬品は同5億円減の53億円となったほか、製造受託品(175億円、同30億円増)が寄与し、医薬品事業では同77億円増の3,872億円となった。

その他事業は化成品の減収により同24億円減の275億円となり、売上高全体では同53億円増の4,148億円となった。

各セグメントの主たる製品及び役務の内容

医薬品事業: 医療用医薬品、一般用医薬品

その他事業: 化成品、不動産賃貸業、情報サービス、宣伝製作物等

営業利益	717 億円	対前期比	8 億円	1.1 %
経常利益	726 億円	対前期比	11 億円	1.4 %
当期純利益	265 億円	対前期比	54 億円	16.9 %

売上高は増収となったが、薬価改定の影響などにより売上原価率が悪化し、売上総利益(2,566億円)は前期比23億円減となった。販売費及び一般管理費(1,849億円)は同15億円減となったものの、営業利益は同8億円減の717億円、経常利益は同11億円減の726億円となった。

特別損失にHCV訴訟損失引当金繰入額(88億円)、投資有価証券評価損(66億円)、特別退職金(43億円)、拠点統廃合などに伴う減損損失(34億円)など、同55億円増の258億円を計上した結果、当期純利益は同54億円減の265億円となった。

2. 2009年度 業績予想サマリー

売上高	4,080 億円	対前期比	68 億円	1.6 %
医薬品事業	3,955 億円	対前期比	83 億円	2.1 %
その他事業	125 億円	対前期比	150 億円	54.6 %

国内医療用医薬品は、レミケード、アンブラーグ、タリオンなどが伸長するものの、2009年度よりエーピーアイコーポレーションが連結子会社から持分法適用関連会社になる影響で、売上高は前期比68億円減の4,080億円を予想している。

営業利益	635 億円	対前期比	82 億円	11.4 %
経常利益	635 億円	対前期比	91 億円	12.5 %
当期純利益	325 億円	対前期比	60 億円	22.5 %

エーピーアイコーポレーションの持分法適用関連会社化による影響で売上構成が変化し減収となるものの、売上原価率が改善し、売上総利益(2,605億円)は前期比39億円増を予想。一方、販売費及び一般管理費(1,970億円)は、研究開発費の増加などにより同121億円増と大幅に増加する見込みで、営業利益は同82億円減の635億円と予想している。

経常利益は同91億円減の635億円、当期純利益は特別損益が大幅に改善することから、同60億円増の325億円を予想している。

3. 配当金

	2008年度		2009年度(予想)	
	中間	年間	中間	年間
1株当たり配当金(円)	14	28	14	28
配当性向	37.6%		36.9%	

(注) 配当性向は、当期純利益からのれん償却額およびHCV訴訟損失引当金繰入額を除いた利益から算出している。

2008年度 連結決算について

1. 損益状況

損益実績

(単位:百万円)

	2007年度 (単純合算)	2008年度	対前期比較		対予想比較		
			増減額	増減率%	予想(注1)	増減額	増減率%
売上高	409,427	414,752	5,325	1.3	420,000	5,248	1.2
営業利益	72,468	71,694	774	1.1	73,000	1,306	1.8
経常利益	73,640	72,582	1,058	1.4	74,500	1,918	2.6
当期純利益	31,932	26,532	5,400	16.9	27,000	468	1.7

<参考> 損益実績(制度会計)

(単位:百万円)

	2007年度 (注2)	2008年度	増減額	増減率%
売上高	315,636	414,752	99,116	31.4
営業利益	54,024	71,694	17,670	32.7
経常利益	54,408	72,582	18,174	33.4
当期純利益	21,993	26,532	4,539	20.6
1株当たり 当期純利益	50.12円	47.28円	2.84円	5.7

セグメント別売上高

(単位:百万円)

	2007年度 (単純合算)	2008年度	対前期比較		対予想比較			主なポイント
			増減額	増減率%	予想(注1)	増減額	増減率%	
医薬品事業 構成比	379,503 92.7%	387,223 93.4%	7,720	2.0	390,649 93.0%	3,426	0.9	国内医療用医薬品 +35億円 海外医療用医薬品 +16億円 製造受託品 +30億円 詳細は4ページ、主要製品売上高を参照
(国内)	(351,353)	(359,365)	(8,012)	(2.3)	(361,945)	(2,580)	(0.7)	
(海外)	(28,150)	(27,858)	(292)	(1.0)	(28,704)	(846)	(2.9)	
その他事業 構成比	29,923 7.3%	27,529 6.6%	2,394	8.0	29,350 7.0%	1,821	6.2	化成品の減収
(国内)	(20,790)	(20,179)	(611)	(2.9)	(20,616)	(437)	(2.1)	
(海外)	(9,133)	(7,350)	(1,783)	(19.5)	(8,734)	(1,384)	(15.8)	
売上高合計 構成比	409,427 100.0%	414,752 100.0%	5,325	1.3	420,000 100.0%	5,248	1.2	海外売上高比率 2007年度:9.1% 2008年度:8.5% 平均為替レート 1\$ = 102.81円
(国内)	(372,144)	(379,544)	(7,400)	(2.0)	(382,562)	(3,018)	(0.8)	
(海外)	(37,283)	(35,208)	(2,075)	(5.6)	(37,438)	(2,230)	(6.0)	

売上原価 / 販売費及び一般管理費

(単位:百万円)

	2007年度 (単純合算)	2008年度	対前期比較		対予想比較			主なポイント
			増減額	増減率%	予想(注1)	増減額	増減率%	
売上原価 売上原価率	150,535 36.8%	158,184 38.1%	7,649	5.1	161,500 38.5%	3,316	2.1	薬価改定の影響等による売上原価率悪化
販管費 販管費率	186,423 45.5%	184,874 44.6%	1,549	0.8	185,500 44.2%	626	0.3	
研究開発費 研究開発費率	72,335 17.7%	73,122 17.6%	787	1.1	74,000 17.6%	878	1.2	導入一時金の発生増加など
人件費	53,021	50,023	2,998	5.7	49,400	623	1.3	
販売促進費	13,262	11,679	1,583	11.9	11,800	121	1.0	早期退職等による従業員数の減少、 退職給付費用の減少など
のれん償却額 (注3)	5,136	10,055	4,919	95.8	10,000	55	0.6	
その他	42,667	39,995	2,672	6.3	40,300	305	0.8	支店・営業所統廃合等、合併による効率化など
総人件費	95,141	91,167	3,974	4.2	91,100	67	0.1	

(注1)2009年4月13日に公表した2008年度業績予想修正値

(注2)2007年度実績 = 三菱ウェルファーマ上期実績 + 田辺三菱製薬下期実績

(注3)合併に係るのれん1,505億円を15年償却、2007年度は下期分を計上

主要製品売上高

(単位:億円)(億円未満四捨五入)

	2007年度 (単純合算)	2008年度	対前期比較		対予想比較		
			増減額	増減率%	予想(注1)	増減額	増減率%
医療用医薬品	3,737	3,819	83	2.2	3,851	31	0.8
国内医療用医薬品	3,319	3,354	35	1.1	3,371	17	0.5
レミケード	286	374	88	30.9	373	1	0.2
ラジカット	279	281	2	0.7	287	6	2.2
アンブラーグ	176	185	9	5.2	186	1	0.4
ウルソ	166	162	4	2.6	164	2	1.1
セレジスト	152	162	10	6.7	163	1	0.6
タナトリル	124	119	5	3.9	119	0	0.3
ヘルベッサー	130	119	11	8.7	120	1	0.8
デパス	115	118	3	2.9	119	1	1.2
ヴェノグロブリン - IH	118	110	8	6.8	110	0	0.2
タリオン	83	104	21	25.3	102	2	1.6
メインテート	102	102	1	0.6	100	2	1.8
リブル	89	87	2	2.7	87	0	0.6
サアミオン	95	81	14	14.9	81	0	0.3
オメブラゾン	62	57	5	7.6	59	1	2.3
ノイアート	58	57	1	2.2	58	1	1.6
テオドール	60	52	8	13.4	52	0	0.8
ガストローム	54	45	9	17.1	44	1	1.9
フルカリック	51	45	6	11.0	45	0	0.0
ノバスタン	29	30	1	1.8	32	2	5.7
ワクチン	169	215	46	27.0	207	8	4.1
(内、ミールピック)	(76)	(118)	(42)	(55.7)	(110)	(9)	(7.9)
(内、インフルエンザ)	(66)	(67)	(0)	(0.7)	(68)	(1)	(1.5)
ジェネリック(注2)	37	40	3	7.6	42	3	6.5
海外医療用医薬品	236	253	16	6.9	267	14	5.3
ヘルベッサー	46	54	8	17.3	61	7	12.3
アルガトロバン (ノバスタン)	33	37	4	12.3	42	6	13.2
タナトリル	20	23	3	15.0	22	1	3.1
ワクチン	17	17	0	0.2	18	1	6.7
製造受託品(注3)	146	175	30	20.2	179	4	2.2
技術導出契約金等	35	37	2	5.6	33	4	11.4
一般用医薬品	58	53	5	9.4	56	3	5.5
医薬品事業	3,795	3,872	77	2.0	3,907	34	0.9
その他事業	299	275	24	8.0	294	18	6.2
売上高合計	4,094	4,148	53	1.3	4,200	52	1.2

(注1) 2008年10月30日 2008年度第2四半期決算発表時の公表数値

(注2) 田辺製薬販売の取扱品

(注3) 他社製品の医薬原体等

営業外損益

(単位:百万円)

	2007年度 (単純合算)	2008年度	増減額	主なポイント
営業外収益	4,138	3,829	309	
受取利息	2,038	2,178	140	
受取配当金	843	810	33	
その他	1,256	841	415	
営業外費用	2,966	2,941	25	
支払利息	120	87	33	
寄付金	587	399	188	
為替差損	150	443	293	
固定資産除却損	678	981	303	
たな卸資産廃棄損	279	119	160	
その他	1,150	912	238	

特別損益

(単位:百万円)

	2007年度 (単純合算)	2008年度	増減額	主なポイント
特別利益	1,988	1,202	786	
企業立地促進事業補助金	1,027	400	627	当期)山口県企業立地促進補助金 前期)北海道企業立地促進事業補助金
投資有価証券売却益	104	154	50	
事業譲渡益	-	126	126	
固定資産売却益	118	23	95	
貸倒引当金戻入額	16	-	16	
その他	722	499	223	
特別損失	20,305	25,798	5,493	
HCV訴訟損失引当金繰入額	9,108	8,800	308	
投資有価証券評価損	57	6,635	6,578	株価下落に伴う評価損
特別退職金	1,834	4,344	2,510	早期退職に伴う特別退職金など 早期退職(単体): 当期 218名、前期 128名
減損損失	-	3,351	3,351	枚方事業所閉鎖、名張第1・第2研修所閉鎖など
米国HIV等訴訟和解金	-	1,256	1,256	
製品回収関連損失	-	657	657	メドウェイ自主回収等に係る費用
構造改革費用	-	342	342	枚方事業所閉鎖、子会社統合関連費用など
工場閉鎖損失	1,638	164	1,474	エービーアイコーポレーション久寿工場閉鎖
投資有価証券売却損	4	10	6	
合併関連費用	6,951	-	6,951	前期)システム関連費用、拠点統合費用など
HIV訴訟健康管理手当等 引当金繰入額	424	-	424	
固定資産処分損	247	-	247	
その他	40	239	199	

法人税等

(単位:百万円)

	2007年度 (単純合算)	2008年度	増減額	主なポイント
税金等調整前当期純利益	55,323	47,986	7,337	法定実効税率 40.6%
法人税、住民税 及び事業税	24,984	27,409	2,425	のれん償却額 8.5% 交際費等永久に損金に算入されない項目 4.3% 受取配当金等永久に益金に算入されない項目 2.8% 受取配当金連結消去に伴う影響額 2.9% 住民税均等割 0.2%
法人税等調整額	1,617	6,355	4,738	試験研究費の特別控除 9.0% その他 0.8%
少数株主利益	24	400	376	税効果会計適用後の法人税等の負担率 43.9%
当期純利益	31,932	26,532	5,400	

2. 財務状況

資産・負債・純資産の状況

(単位: 百万円)

	2007年度末	2008年度末	構成比%	増減額	主なポイント
総資産	807,261	810,756	100.0	3,495	
流動資産	382,026	364,444	45.0	17,582	現金及び預金 557億円、有価証券 +120億円、売上債権(注1) +29億円、たな卸資産 +42億円、短期貸付金 +195億円、繰延税金資産 +3億円、その他の流動資産 8億円
固定資産	425,235	446,312	55.0	21,077	有形固定資産 77億円、無形固定資産 94億円、投資有価証券 +268億円、前払年金費用 +15億円、その他の投資等 +99億円
負債	139,453	144,536	17.8	5,083	
流動負債	89,449	89,150	11.0	299	仕入債務(注2) 10億円、未払金 +27億円、未払法人税等 7億円、その他の流動負債 8億円
固定負債	50,004	55,386	6.8	5,382	繰延税金負債 11億円、退職給付引当金 10億円、スモン訴訟健康管理手当等引当金 5億円、HCV訴訟損失引当金 +88億円、その他固定負債 7億円
純資産	667,808	666,220	82.2	1,588	
株主資本	654,307	665,623	82.1	11,316	利益剰余金 +114億円
評価・換算差額等	1,078	13,161	1.6	12,083	その他有価証券評価差額金 71億円
少数株主持分	14,579	13,758	1.7	821	

主要項目の増減

(単位: 百万円)

	2007年度末	2008年度末	増減額	主なポイント
現金及び預金	79,655	23,931	55,724	P7「キャッシュ・フロー計算書」参照
有価証券	55,634	67,680	12,046	譲渡性預金、国債の増加など
売上債権(注1) (売上債権回転月数)	125,280 (3.67)	128,130 (3.71)	2,850 (0.04)	売掛金残高対象期間の売上高増加
たな卸資産	73,473	77,692	4,219	主にレミケードなどの商品在庫が増加
短期貸付金	30,924	50,410	19,486	三菱ケミカルホールディングスグループ金融会社 エムシー・エフエーへの貸付金増加など
繰延税金資産	12,664	12,975	311	
その他の流動資産	4,396	3,626	770	
有形固定資産	139,510	131,797	7,713	設備投資 +122億円、減価償却 146億円、減損 34億円
無形固定資産	149,056	139,651	9,405	情報システム開発投資 +17億円、のれん償却 101億円、減価償却 11億円
投資有価証券	88,000	114,785	26,785	国債取得、長生堂製薬、サイトクローマ株式取得など
前払年金費用	33,988	35,475	1,487	
その他の投資等	14,681	24,604	9,923	
仕入債務(注2)	27,139	26,093	1,046	
未払金	18,206	20,944	2,738	
未払法人税等	15,271	14,621	650	
その他の流動負債	20,852	20,053	799	
有利子負債	8,151	7,469	682	
短期借入金(注3)	6,741	7,299	558	
長期借入金(注4)	1,410	170	1,240	
繰延税金負債	12,802	11,673	1,129	
退職給付引当金	16,928	15,944	984	
HIV訴訟健康管理手当等引当金	1,758	1,728	30	
スモン訴訟健康管理手当等引当金	5,093	4,634	459	
HCV訴訟損失引当金	11,200	20,000	8,800	給付金支給に要する費用の負担割合について、厚生労働大臣により告示された基準に基づき、当社負担に帰する費用の額を見積もり計上
その他の固定負債	2,053	1,377	676	
資本金	50,000	50,000	-	
資本剰余金	451,184	451,186	2	
利益剰余金	153,332	164,712	11,380	当期純利益 +265億円、配当金支払い 152億円
自己株式	209	275	66	
その他有価証券評価差額金	1,511	5,605	7,116	

(注1) 売上債権 = 受取手形 + 売掛金 (注2) 仕入債務 = 支払手形(除く営業外支払手形) + 買掛金

(注3, 4) 借入金...1年以内返済予定長期借入金は長期借入金に含めた。

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	2007年度 (単純合算)	2008年度	増減額	主なポイント
現金・現金同等物期首残高	131,303	160,096	28,793	
営業キャッシュ・フロー	46,447	50,540	4,093	
投資キャッシュ・フロー	8,981	74,508	65,527	有価証券の取得・売却・償還 192億円 (前期 +107億円、当期 85億円) 有形固定資産の取得・売却 3億円 (前期 104億円、当期 107億円) 投資有価証券の取得・売却 493億円 (前期 69億円、当期 561億円) 定期預金の預入・払戻 10億円 (前期 +2億円、当期 8億円) 長期性預金の預入・払戻 +48億円 (前期 18億円、当期 +30億円)
財務キャッシュ・フロー	9,097	15,986	6,889	短期借入金の増減 3億円 (前期 +9億円、当期 +6億円) 配当金の支払 25億円 (前期 126億円、当期 152億円) 少数株主の株式払込 42億円 (前期 +42億円、当期 -)
現金・現金同等物に係る換算差額	819	3,239	2,420	
現金・現金同等物の増減額	27,548	43,193	70,741	
連結子会社の増加による 現金・現金同等物の受入	1,277	-	1,277	
連結子会社の減少による 現金・現金同等物の減少	33	-	33	
現金・現金同等物期末残高	160,096	116,903	43,193	

* 現金及び現金同等物期末残高と連結貸借対照表上の現金及び預金との関係(単位:百万円)

	2007年度	2008年度
現金及び預金	79,655	23,931
預入期間が3ヵ月を超える定期預金	751	1,351
取得日から3ヵ月以内に償還期限が到来する有価証券	50,477	44,000
短期貸付金に含まれる現金及び現金同等物	30,715	50,323
現金及び現金同等物	160,096	116,903

設備投資 / 情報システム開発投資

(単位:百万円)

	2007年度 (単純合算)	2008年度	増減額
設備投資額 / 発生ベース	9,987	12,175	2,188
システム投資額 / 発生ベース	1,945	1,711	234

< 2008年度の主な取得設備 >

研究機能統合に関わる設備投資(枚方から加島へ)	5億円
新規包装設備(鹿島事業所)	5億円
田辺三菱製薬工場(旧山口田辺製薬)第7原薬棟建設	19億円
三菱製薬(広州) 輸液バッグ生産設備	11億円

減価償却費

(単位:百万円)

	2007年度 (単純合算)	2008年度	増減額
有形固定資産	13,292	14,581	1,289
無形固定資産	1,793	1,077	716

3. 関係会社

関係会社数

	2007年度末	2008年度末	増減数	特記事項
連結子会社数	32	30	2	減少) 山口田辺製薬、不二興産
非連結子会社	2	5	3	増加) 長生堂製薬、長生薬品、ホシエヌ製薬
関連会社数	5	5	-	
合計	39	40	1	

主要連結子会社の財務数値・従業員数

(単位:百万円)

会社名 項目	期	吉富薬品	ベネシス	田辺三菱製薬工場(注1) (単純合算)	三菱製薬 (広州)	エービーアイ コーポレーション(注2)	天津田辺製薬
決算期		3月末	3月末	3月末	12月末	3月末	12月末
資本金	2008年度末	385	3,000	1,130	1,269	4,000	1,261
	2007年度末	385	3,000	1,130	1,269	4,000	1,261
議決権 所有割合	2008年度末	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	52.6%	66.7%
	2007年度末	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	52.6%	66.7%
総資産	2008年度末	6,203	29,181	47,593	4,565	30,299	1,856
	2007年度末	5,160	30,156	46,578	4,401	32,447	1,954
純資産	2008年度末	4,848	24,508	29,858	3,430	11,814	1,334
	2007年度末	4,120	23,905	29,000	3,473	11,472	1,472
売上高	2008年度	6,476	17,311	42,485	3,677	34,132	2,049
	2007年度	5,880	17,638	35,899	3,399	37,520	1,931
営業利益	2008年度	2,142	2,806	1,924	646	1,192	177
	2007年度	1,568	3,573	1,883	559	874	62
経常利益	2008年度	2,156	2,780	1,770	653	860	174
	2007年度	1,565	3,505	1,697	571	578	64
純損益	2008年度	1,151	1,730	1,302	504	425	88
	2007年度	792	2,255	1,021	458	486	27
研究開発費	2008年度	-	2,710	743	22	1,161	3
	2007年度	-	2,866	560	10	1,915	2
有形固定資産 減価償却費	2008年度	1	1,409	3,507	104	1,489	67
	2007年度	2	1,785	2,547	94	1,625	69
従業員数	2008年度末	237	480	822	406	651	330
	2007年度末	226	425	760	375	699	316

(注1)2008年10月1日、MPテクノファーマと山口田辺製薬が合併し、田辺三菱製薬工場が発足

(注2)エービーアイコーポレーションは、2009年4月1日より持分法適用関連会社へ移行

その他の連結子会社一覧

(2009年3月31日現在)

	会社名	資本金(百万円)	議決権所有割合(内、間接所有分)	決算期
1	(株)ウェルファイドサービス	106	100.0 ()	3月末
2	アルケマ吉富(株)	100	26.8 (26.8)	9月末
3	MPロジスティクス(株)	95	65.0 ()	3月末
4	(株)バイファ	7,500	51.0 ()	3月末
5	田辺製薬吉城工場(株)	400	100.0 ()	3月末
6	田辺製薬販売(株)	70	100.0 ()	3月末
7	(株)田辺アールアンドディー・サービス	44	100.0 ()	3月末
8	田辺総合サービス(株)	90	100.0 ()	3月末
9	ウェルファイド・インターナショナル・コーポレーション	US\$36,816,000	100.0 ()	12月末
10	アルファ・セラピューティック・コーポレーション	US\$50,000,000	100.0 (100.0)	12月末
11	三菱ファーマアメリカ	US\$100	100.0 ()	12月末
12	MP ヘルスケア ベンチャー マネジメント	US\$100	65.0 ()	12月末
13	タナベ ホールディング アメリカ	US\$165	100.0 ()	12月末
14	タナベ リサーチ ラボラトリーズ U.S.A.	US\$3,000,000	100.0 (100.0)	12月末
15	タナベ U.S.A.	US\$1,400,000	100.0 (100.0)	12月末
16	タナベ ファーマ デベロップメント アメリカ エルエルシー	-	()	12月末
17	三菱製薬研発(北京)有限公司	US\$1,000,000	100.0 ()	12月末
18	台湾田辺製薬股份有限公司	NT\$90,000,000	65.0 ()	12月末
19	台田薬品股份有限公司	NT\$20,000,000	65.0 ()	12月末
20	タナベ インドネシア	US\$2,500,000	99.6 ()	12月末
21	ウェルファイド コリア(株)	KRW 2,100,000,000	100.0 ()	12月末
22	三菱ファーマヨーロッパ	£4,632,000	100.0 ()	12月末
23	三菱ファーマドイツ	EUR 25,000	100.0 (100.0)	12月末
24	タナベ ヨーロッパ	EUR 260,330	100.0 ()	12月末

持分法適用非連結子会社一覧

(2009年3月31日現在)

	会社名	資本金(百万円)	議決権所有割合(内、間接所有分)	決算期
1	長生堂製薬(株)	340	51.0 ()	12月末
2	長生薬品(株)	99	51.0 (51.0)	9月末
3	ホシエヌ製薬(株)	75	51.0 (51.0)	3月末

持分法適用関連会社一覧

(2009年3月31日現在)

	会社名	資本金(百万円)	議決権所有割合(内、間接所有分)	決算期
1	小倉美術印刷(株)	145	30.8 ()	12月末
2	興栄商事(株)	10	50.0 ()	7月末
3	サンケミカル(株)	342	48.3 ()	3月末
4	サンテラボ・タナベ シミイ	EUR 1,600,000	50.0 ()	12月末

2009年度 業績予想について

損益予想

(単位:億円)(億円未満四捨五入)

	2008年度 上期実績	2009年度 上期予想	増減額	増減率	2008年度 通期実績	2009年度 通期予想	増減額	増減率	主なポイント
売上高	2,063	1,995	68	3.3	4,148	4,080	68	1.6	エービーアイコーポレーションの連結子会社から持分法適用関連会社への異動により、売上高は約250億円の減収要因
売上原価	789	740	49	6.3	1,582	1,475	107	6.8	
売上原価率	38.3%	37.1%			38.1%	36.2%			
販管費	933	1,030	97	10.4	1,849	1,970	121	6.6	
販管費率	45.2%	51.6%			44.6%	48.3%			
営業利益	341	225	116	34.0	717	635	82	11.4	
経常利益	351	225	126	36.0	726	635	91	12.5	
特別利益	1	-	1	100.0	12	-	12	100.0	
特別損失	48	25	23	48.3	258	45	213	82.6	構造改革費用
当期純利益	164	100	64	39.0	265	325	60	22.5	

セグメント別売上高予想

(単位:億円)(億円未満四捨五入)

	2008年度 上期実績	2009年度 上期予想	増減額	増減率	2008年度 通期実績	2009年度 通期予想	増減額	増減率	主なポイント
医薬品事業	1,910	1,930	20	1.1	3,872	3,955	83	2.1	国内医療用医薬品はレミケード、アンブラグ、タリオンなどの伸長により増収となるものの、エービーアイコーポレーションの連結子会社から持分法適用関連会社への異動の影響で減収を予想
構成比	92.5%	96.7%			93.4%	96.9%			
(国内)	(1,764)	(1,815)	(51)	(2.9)	(3,594)	(3,720)	(126)	(3.5)	
(海外)	(146)	(115)	(31)	(21.2)	(279)	(235)	(44)	(15.6)	
その他事業	154	65	89	57.8	275	125	150	54.6	詳細は11ページ、主要製品売上高予想を参照
構成比	7.5%	3.3%			6.6%	3.1%			
(国内)	(109)	(45)	(64)	(58.9)	(202)	(85)	(117)	(57.9)	
(海外)	(44)	(20)	(24)	(55.0)	(74)	(40)	(34)	(45.6)	
売上高合計	2,063	1,995	68	3.3	4,148	4,080	68	1.6	海外売上高比率 2008年度:8.5% 2009年度予想:6.7% 計画為替レート 1\$ = 90円
構成比	100.0%	100.0%			100.0%	100.0%			
(国内)	(1,873)	(1,860)	(13)	(0.7)	(3,795)	(3,805)	(10)	(0.3)	
(海外)	(190)	(135)	(55)	(29.1)	(352)	(275)	(77)	(21.9)	

販売費及び一般管理費 / 総人件費予想

(単位:億円)(億円未満四捨五入)

	2008年度 上期実績	2009年度 上期予想	増減額	増減率	2008年度 通期実績	2009年度 通期予想	増減額	増減率	主なポイント
販管費	933	1,030	97	10.4	1,849	1,970	121	6.6	
研究開発費	376	470	94	24.9	731	860	129	17.6	研究開発費率:21.1%
人件費	252	256	4	1.4	500	507	7	1.4	退職給付費用増加
販売促進費	57	58	1	1.3	117	115	2	1.5	
のれん償却額	50	50	0	0.5	101	100	1	0.5	合併に係るのれん償却
その他	197	196	1	0.6	400	388	12	3.0	
総人件費	462	445	17	3.6	912	885	27	2.9	

主要製品売上高予想

(単位:億円)(億円未満四捨五入)

	2008年度 上期実績	2009年度 上期予想	増減額	増減率%	2008年度 通期実績	2009年度 通期予想	増減額	増減率%
医療用医薬品	1,881	1,900	19	1.0	3,819	3,900	81	2.1
国内医療用医薬品	1,651	1,725	74	4.5	3,354	3,535	181	5.4
レミケード	177	227	49	27.8	374	468	94	25.2
ラジカット	139	138	0	0.2	281	276	5	1.6
アンブラーグ	91	99	8	8.8	185	196	12	6.3
ウルソ	80	82	2	2.6	162	168	6	3.5
セレジスト	82	86	4	4.8	162	170	7	4.6
タナトリル	61	60	0	0.8	119	116	3	2.4
ヘルベッサー	60	57	3	4.4	119	115	4	3.1
デバス	59	59	0	0.6	118	119	1	0.6
ヴェノグロブリン - IH	56	52	4	6.3	110	104	6	5.3
タリオン	35	41	6	16.9	104	122	18	17.6
メインテート	50	53	2	4.5	102	106	4	4.1
リプル	43	42	1	2.6	87	85	2	1.8
サアミオン	42	38	4	9.6	81	74	7	8.4
オメブラゾン	28	28	1	2.8	57	56	1	2.6
ノイアート	28	28	0	0.2	57	57	0	0.8
テオドール	26	22	3	12.5	52	46	6	11.5
ガストローム	23	22	1	3.9	45	42	3	5.9
フルカリック	23	19	3	14.1	45	37	8	17.8
ノバスタン	15	16	1	5.4	30	29	1	3.3
ワクチン	103	105	2	1.7	215	212	3	1.4
(内、ミールピック)	(72)	(73)	(1)	(1.7)	(118)	(115)	(3)	(2.7)
(内、インフルエンザ)	(14)	(12)	(2)	(12.0)	(67)	(64)	(3)	(4.1)
ジェネリック(注1)	19	36	17	87.4	40	90	50	126.4
海外医療用医薬品	134	110	24	17.9	253	225	28	10.9
ヘルベッサー	31	23	7	23.4	54	45	8	15.2
アルガトロバン (ノバスタン)	20	17	2	11.3	37	35	2	6.3
タナトリル	13	11	1	9.6	23	22	1	3.0
ワクチン	12	6	6	47.7	17	12	5	28.1
製造受託品(注2)	73	51	22	30.3	175	103	72	41.3
技術導出契約金等	23	14	9	38.6	37	37	0	0.2
一般用医薬品	29	30	1	4.9	53	55	2	4.2
医薬品事業	1,910	1,930	20	1.1	3,872	3,955	83	2.1
その他事業	154	65	89	57.8	275	125	150	54.6
売上高合計	2,063	1,995	68	3.3	4,148	4,080	68	1.6

(注1) 田辺製薬販売の取扱品

(注2) 他社製品の医薬原体等

設備投資予想

(単位:億円)(億円未満四捨五入)

	2008年度 上期実績	2009年度 上期予想	増減額	増減率%	2008年度 通期実績	2009年度 通期予想	増減額	増減率%
設備投資額 / 発生ベース	62	58	4	7.1	122	92	30	24.4

<2009年度の取得予定設備>

・研究関係	34億円
・生産関係	47億円
・その他	11億円

情報システム開発投資予想

(単位:億円)(億円未満四捨五入)

	2008年度 上期実績	2009年度 上期予想	増減額	増減率%	2008年度 通期実績	2009年度 通期予想	増減額	増減率%
システム投資額 / 発生ベース	7	23	16	237.2	17	28	11	63.6

<2009年度のシステム投資予定>

・研究開発関係	1億円
・生産関係	17億円
・営業関係その他	10億円

減価償却費予想

(単位:億円)(億円未満四捨五入)

	2008年度 上期実績	2009年度 上期予想	増減額	増減率%	2008年度 通期実績	2009年度 通期予想	増減額	増減率%
有形固定資産	68	72	4	6.2	146	153	7	4.9
無形固定資産	6	6	0	6.6	11	13	2	20.7

四半期業績推移(損益計算書)

(単位:億円)(億円未満四捨五入)

	2007年度(単純合算)					2008年度					2009年度
	第1四半期 4~6月	第2四半期 7~9月	第3四半期 10~12月	第4四半期 1~3月	通期実績	第1四半期 4~6月	第2四半期 7~9月	第3四半期 10~12月	第4四半期 1~3月	通期実績	予想
売上高	1,049 25.6%	1,028 25.1%	1,157 28.3%	859 21.0%	4,094 100.0%	1,082 26.1%	981 23.7%	1,190 28.7%	894 21.6%	4,148 100.0%	4,080 100.0%
(国内)	(967) (26.0%)	(921) (24.7%)	(1,070) (28.7%)	(763) (20.6%)	(3,721) (100.0%)	(992) (26.1%)	(881) (23.2%)	(1,101) (29.0%)	(822) (21.6%)	(3,795) (100.0%)	(3,805) (100.0%)
(海外)	(82) (21.9%)	(107) (28.8%)	(88) (23.5%)	(96) (25.8%)	(373) (100.0%)	(91) (25.8%)	(100) (28.3%)	(89) (25.3%)	(73) (20.6%)	(352) (100.0%)	(275) (100.0%)
医薬品事業	975 25.7%	952 25.1%	1,084 28.6%	784 20.6%	3,795 100.0%	1,006 26.0%	903 23.3%	1,115 28.8%	848 21.9%	3,872 100.0%	3,955 100.0%
(国内)	(909) (25.9%)	(878) (25.0%)	(1,016) (28.9%)	(711) (20.2%)	(3,514) (100.0%)	(937) (26.1%)	(827) (23.0%)	(1,046) (29.1%)	(784) (21.8%)	(3,594) (100.0%)	(3,720) (100.0%)
(海外)	(66) (23.5%)	(75) (26.5%)	(68) (24.2%)	(73) (25.8%)	(282) (100.0%)	(69) (24.9%)	(76) (27.4%)	(69) (24.9%)	(63) (22.7%)	(279) (100.0%)	(235) (100.0%)
その他事業	75 24.9%	76 25.3%	74 24.6%	75 25.2%	299 100.0%	76 27.7%	78 28.2%	75 27.1%	47 17.0%	275 100.0%	125 100.0%
(国内)	(59) (28.3%)	(43) (20.7%)	(54) (25.9%)	(52) (25.0%)	(208) (100.0%)	(55) (27.2%)	(55) (27.0%)	(55) (27.3%)	(37) (18.5%)	(202) (100.0%)	(85) (100.0%)
(海外)	(16) (17.1%)	(33) (35.8%)	(20) (21.5%)	(23) (25.5%)	(91) (100.0%)	(21) (29.0%)	(23) (31.4%)	(20) (26.7%)	(9) (12.9%)	(74) (100.0%)	(40) (100.0%)
売上原価 売上原価率	388 37.0%	369 35.9%	426 36.8%	322 37.4%	1,505 36.8%	396 36.6%	394 40.1%	450 37.8%	343 38.3%	1,582 38.1%	1,475 36.2%
販売費及び 一般管理費	443 23.8%	480 25.7%	434 23.3%	508 27.2%	1,864 100.0%	433 23.4%	500 27.1%	430 23.3%	486 26.3%	1,849 100.0%	1,970 100.0%
研究開発費	178 24.6%	189 26.1%	162 22.4%	195 26.9%	723 100.0%	163 22.3%	213 29.2%	163 22.3%	192 26.3%	731 100.0%	860 100.0%
人件費	135 25.4%	137 25.9%	127 23.9%	131 24.8%	530 100.0%	126 25.1%	127 25.4%	123 24.5%	125 25.0%	500 100.0%	507 100.0%
販売促進費	27 20.3%	44 33.4%	25 18.6%	37 27.7%	133 100.0%	23 19.9%	34 29.1%	30 25.5%	30 25.5%	117 100.0%	115 100.0%
のれん償却額	0 0.4%	0 0.4%	26 50.2%	25 49.0%	51 100.0%	25 25.0%	25 25.0%	25 25.0%	25 25.0%	101 100.0%	100 100.0%
その他	103 24.2%	109 25.6%	95 22.2%	120 28.0%	427 100.0%	96 24.0%	101 25.3%	89 22.3%	113 28.4%	400 100.0%	388 100.0%
営業利益	218 30.1%	180 24.8%	298 41.1%	29 4.0%	725 100.0%	254 35.4%	87 12.1%	310 43.3%	66 9.2%	717 100.0%	635 100.0%
経常利益	227 30.8%	175 23.8%	307 41.7%	28 3.7%	736 100.0%	259 35.7%	92 12.7%	312 43.0%	62 8.5%	726 100.0%	635 100.0%
四半期(当期) 純利益	129 40.5%	74 23.3%	172 53.9%	56 17.7%	319 100.0%	146 55.2%	17 6.5%	157 59.3%	56 21.0%	265 100.0%	325 100.0%

(注)各項目(売上原価を除く)の下段は進捗率を表示

四半期業績推移(主要製品売上高)

(単位:億円)(億円未満四捨五入)

	2007年度(単純合算)					2008年度					2009年度
	第1四半期 4-6月	第2四半期 7-9月	第3四半期 10-12月	第4四半期 1-3月	通期実績	第1四半期 4-6月	第2四半期 7-9月	第3四半期 10-12月	第4四半期 1-3月	通期実績	予想
医療用医薬品	961 25.7%	935 25.0%	1,069 28.6%	772 20.7%	3,737 100.0%	994 26.0%	887 23.2%	1,102 28.8%	837 21.9%	3,819 100.0%	3,900 100.0%
国内医療用医薬品	865 26.1%	807 24.3%	980 29.5%	667 20.1%	3,319 100.0%	880 26.2%	771 23.0%	985 29.4%	718 21.4%	3,354 100.0%	3,535 100.0%
レミケード	63 22.0%	72 25.3%	87 30.6%	63 22.1%	286 100.0%	89 23.7%	89 23.8%	109 29.2%	87 23.4%	374 100.0%	468 100.0%
ラジカット	72 25.9%	74 26.4%	80 28.8%	53 18.9%	279 100.0%	73 26.1%	65 23.3%	84 30.0%	58 20.7%	281 100.0%	276 100.0%
アンブラーグ	45 25.6%	47 26.5%	48 27.3%	36 20.6%	176 100.0%	49 26.5%	42 22.5%	54 29.1%	40 21.8%	185 100.0%	196 100.0%
ウルソ	42 25.2%	42 25.3%	47 28.3%	35 21.2%	166 100.0%	43 26.4%	38 23.3%	46 28.6%	35 21.8%	162 100.0%	168 100.0%
セレジスト	41 26.8%	38 24.8%	44 28.8%	30 19.6%	152 100.0%	43 26.7%	38 23.6%	47 28.7%	34 21.0%	162 100.0%	170 100.0%
タナトリル	34 27.8%	30 24.0%	37 29.9%	23 18.3%	124 100.0%	34 28.6%	27 22.3%	35 29.0%	24 20.1%	119 100.0%	116 100.0%
ヘルベッサー	36 27.8%	31 23.8%	38 29.4%	25 19.0%	130 100.0%	33 27.7%	27 22.9%	34 28.9%	24 20.5%	119 100.0%	115 100.0%
デバス	29 25.5%	29 25.3%	32 27.6%	25 21.6%	115 100.0%	31 26.4%	28 23.6%	34 28.4%	25 21.5%	118 100.0%	119 100.0%
ヴェノグロブリン - IH	32 26.9%	31 26.3%	34 28.7%	21 18.1%	118 100.0%	29 26.4%	26 23.9%	34 31.0%	21 18.7%	110 100.0%	104 100.0%
タリオン	16 19.9%	15 17.6%	20 24.4%	32 38.1%	83 100.0%	21 19.8%	15 14.1%	25 24.1%	44 42.0%	104 100.0%	122 100.0%
メインテート	28 27.2%	25 24.1%	30 29.2%	20 19.5%	102 100.0%	27 26.6%	23 22.7%	29 28.8%	22 22.0%	102 100.0%	106 100.0%
リブル	23 25.6%	23 25.7%	24 27.4%	19 21.3%	89 100.0%	23 26.6%	20 22.7%	25 29.3%	19 21.5%	87 100.0%	85 100.0%
サアミオン	27 28.7%	23 24.6%	27 28.8%	17 17.9%	95 100.0%	23 28.2%	19 23.2%	23 28.7%	16 19.9%	81 100.0%	74 100.0%
オメプラゾン	16 25.4%	17 27.1%	17 27.6%	12 19.9%	62 100.0%	16 27.1%	13 22.7%	17 29.2%	12 21.0%	57 100.0%	56 100.0%
ノイアート	14 24.4%	15 25.6%	18 31.1%	11 18.9%	58 100.0%	14 25.4%	14 24.0%	18 32.3%	10 18.3%	57 100.0%	57 100.0%
テオドール	16 26.9%	14 23.5%	19 31.6%	11 18.0%	60 100.0%	15 28.2%	11 21.3%	16 31.4%	10 19.1%	52 100.0%	46 100.0%
ガストローム	15 28.0%	13 24.5%	16 28.6%	10 18.9%	54 100.0%	13 28.5%	10 23.1%	12 27.8%	9 20.7%	45 100.0%	42 100.0%
フルカリック	14 27.0%	13 25.8%	15 29.0%	9 18.2%	51 100.0%	12 25.8%	11 24.5%	13 29.6%	9 20.1%	45 100.0%	37 100.0%
ノバスタン	7 25.3%	7 25.4%	9 29.9%	6 19.4%	29 100.0%	8 26.3%	7 23.6%	9 30.2%	6 19.9%	30 100.0%	29 100.0%
ワクチン	40 23.8%	28 16.6%	69 40.7%	32 18.9%	169 100.0%	54 25.3%	48 22.5%	73 33.8%	40 18.4%	215 100.0%	212 100.0%
(内、ミールピック)	(31) (41.2%)	(13) (16.9%)	(9) (12.4%)	(22) (29.5%)	(76) (100.0%)	(46) (38.8%)	(26) (22.1%)	(19) (16.0%)	(27) (23.1%)	(118) (100.0%)	(115) (100.0%)
(内、インフルエンザ)	(1) (1.3%)	(10) (14.7%)	(56) (83.6%)	(2) (3.0%)	(66) (100.0%)	(0) (0.2%)	(14) (20.4%)	(49) (72.8%)	(5) (7.0%)	(67) (100.0%)	(64) (100.0%)
ジェネリック(注2)	10 26.1%	9 23.1%	11 29.8%	8 21.0%	37 100.0%	10 25.3%	9 23.7%	11 28.0%	9 23.1%	40 100.0%	90 100.0%
海外医療用医薬品	58 24.4%	60 25.6%	59 24.8%	60 25.2%	236 100.0%	66 25.9%	68 27.1%	61 24.3%	57 22.6%	253 100.0%	225 100.0%
ヘルベッサー	11 23.9%	13 28.7%	11 24.1%	11 23.3%	46 100.0%	15 27.4%	16 29.8%	11 20.5%	12 22.3%	54 100.0%	45 100.0%
アルガトロバン (ノバスタン)	8 24.1%	8 23.6%	7 22.4%	10 29.9%	33 100.0%	10 26.9%	10 26.2%	8 21.5%	9 25.4%	37 100.0%	35 100.0%
タナトリル	4 21.7%	7 33.7%	4 19.8%	5 24.8%	20 100.0%	7 29.1%	6 25.9%	5 23.5%	5 21.5%	23 100.0%	22 100.0%
ワクチン	7 39.2%	4 23.7%	3 15.5%	4 21.6%	17 100.0%	5 29.6%	7 38.1%	3 17.1%	3 15.3%	17 100.0%	12 100.0%
製造受託品(注3)	35 23.8%	54 37.2%	25 17.2%	32 21.8%	146 100.0%	37 21.1%	36 20.7%	48 27.6%	54 30.7%	175 100.0%	103 100.0%
技術導出契約金等	3 8.5%	13 38.0%	5 14.1%	14 39.4%	35 100.0%	11 30.9%	11 30.8%	6 17.1%	8 21.1%	37 100.0%	37 100.0%
一般用医薬品	14 23.8%	17 29.1%	15 26.2%	12 20.9%	58 100.0%	13 24.0%	16 30.2%	13 25.5%	11 20.3%	53 100.0%	55 100.0%
医薬品事業	975 25.7%	952 25.1%	1,084 28.6%	784 20.6%	3,795 100.0%	1,006 26.0%	903 23.3%	1,115 28.8%	848 21.9%	3,872 100.0%	3,955 100.0%
その他事業	75 24.9%	76 25.3%	74 24.6%	75 25.2%	299 100.0%	76 27.7%	78 28.2%	75 27.1%	47 17.0%	275 100.0%	125 100.0%
売上高合計	1,049 25.6%	1,028 25.1%	1,157 28.3%	859 21.0%	4,094 100.0%	1,082 26.1%	981 23.7%	1,190 28.7%	894 21.6%	4,148 100.0%	4,080 100.0%

(注1) 各項目の下段は進捗率を表示

(注2) 田辺製薬販売の取扱品

(注3) 他社製品の医薬原体等

・新製品開発状況について（2009年5月8日現在）

1．国内開発状況

新規化合物

治験コード/製品名 (一般名)	薬剤分類 (予定適応症など)	開発段階	起源	備考
TA-8317 / アクレフ (フェンタニルクエン酸塩)	麻薬鎮痛剤 (癌性突出痛・口腔粘膜吸収剤)	申請中 (2008年8月)	米:セファロン	
MCC-847 (マシルカスト)	ロイコトリエンD4受容体拮抗剤 (気管支喘息) (アレルギー性鼻炎)	フェーズ3 フェーズ2	英:アストラゼネカ	
MP-424 (テラプレビル)	NS3-4Aプロテアーゼ阻害剤 (C型慢性肝炎)	フェーズ3	米:ヴァーテックス	
APTA-2217 (ロフルミラスト)	PDE4阻害剤 (気管支喘息) (COPD)	フェーズ2/3 フェーズ2/3	スイス:ナイコメッド	共同開発 (スイス:ナイコメッド)
CNTO148 (ゴリムマブ)	抗ヒトTNF モノクローナル抗体製剤 (関節リウマチ)	フェーズ2/3	米:セントコア	共同開発 (ヤンセンファーマ)
FTY720 (フィンゴリモド塩酸塩)	スフィンゴシン1リン酸受容体作動剤 (多発性硬化症*)	フェーズ2	自社	共同開発 (ノバルティスファーマ) (三井製糖)
MP-513 (テネグリブチン)	DPP4阻害剤 (2型糖尿病)	フェーズ2	自社	
MP-214 (カリブラジン)	D3/D2拮抗剤 (統合失調症)	フェーズ2	ハンガリー: ゲデオンリヒター	
MP-435	C5a拮抗剤 (関節リウマチ)	フェーズ1	自社	
TA-6666	DPP4阻害剤 (2型糖尿病)	フェーズ1	自社	
TA-7284	SGLT2阻害剤 (糖尿病)	フェーズ1	自社	

*: 希少疾病用医薬品指定

効能追加

治験コード/製品名 (一般名)	薬剤分類 (予定適応症など)	開発段階	起源	備考
献血ヴェノグロブリン - IH (ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン)	ヒト免疫グロブリンG (免疫グロブリンG2欠乏症)	申請中 (1997年12月)	自社	
	(多発性筋炎・皮膚筋炎*)	申請中 (2003年5月)		
	(低・無ガンマグロブリン血症:用量の追加)	申請中 (2008年3月)		
	(全身性強皮症)	フェーズ3		
	(重症筋無力症)	フェーズ3		
レミケード (インフリキシマブ(遺伝子組換え))	抗ヒトTNF モノクローナル抗体製剤 (関節リウマチ:用法・用量の変更)	申請中 (2007年9月)	米:セントコア	
	(乾癬)	申請中 (2008年2月)		
	(強直性脊椎炎*)	申請中 (2008年9月)		
	(潰瘍性大腸炎)	フェーズ3		
	(クローン病:用法・用量の変更)	フェーズ3		
バリキサ (バルガンシクロビル)	抗ウイルス剤 (移植後サイトメガロウイルス感染)	申請中 (2008年6月)	スイス:ロシュ	
セレジスト (タルチレリン水和物)	脊髄小脳変性症治療剤 (口腔内崩壊錠:剤型の追加)	申請中 (2008年7月)	自社	
モディオダール (モダフィニル)	精神神経用剤 (閉塞性睡眠時無呼吸症候群)	フェーズ3	米:セファロン	共同開発 (アルフレッサファーマ)
ラジカット (エダラボン)	フリーラジカル消去剤 (筋萎縮性側索硬化症*)	フェーズ3	自社	
メインテート (ピソプロロール)	選択的 1 遮断剤 (慢性心不全)	フェーズ3	独:メルク	
バズクロス (メシル酸バズフロキサシン)	ニューキノロン系合成抗菌製剤 (重症難治症例:用量の追加) (敗血症・肺炎球菌)	フェーズ3	富山化学工業	共同開発 (富山化学工業)
コレバイン (コレスチミド(JAN))	糖尿病改善作用 (2型糖尿病)	フェーズ2	自社	
	リン吸収阻害作用 (高リン血症)	フェーズ1		

*: 希少疾病用医薬品指定

2. 海外開発状況

新規化合物

治験コード/製品名 (一般名)	薬剤分類 (予定適応症など)	地域	開発段階	起源	備考
MCI-196 (コレステラン(INN))	リン吸収阻害剤 (高リン血症)	米国、欧州	フェーズ3	自社	
MP-146	尿毒症毒素吸着剤 (慢性腎臓病)	米国、欧州	フェーズ3	クレハ	
TA-6666	DPP4阻害剤 (2型糖尿病)	米国	フェーズ2	自社	
TA-5538	NK-1拮抗剤 (過活動膀胱)	欧州	フェーズ2	自社	
MCC-135 (カルダレット)	心筋内カルシウム調節剤 (心筋梗塞)	米国、欧州	フェーズ2	自社	
MCC-257	神経栄養因子賦活剤 (糖尿病性神経障害)	米国	フェーズ2	自社	
MT-2832	ビタミンD誘導体 (二次性副甲状腺機能亢進症)	カナダ	フェーズ2	カナダ: サイトクローマ	
MCI-186 (エダラボン)	フリーラジカル消去剤 (脳梗塞急性期)	欧州	フェーズ1	自社	
TA-5493	p38阻害剤 (関節リウマチ、乾癬)	欧州	フェーズ1	自社	
MP-513 (テネグリブチン)	DPP4阻害剤 (2型糖尿病)	米国、欧州	フェーズ1	自社	
GB-1057 (人血清アルブミン(遺伝子組換え))	遺伝子組換えヒト血清アルブミン (安定化剤)	米国	フェーズ1	自社	
TA-8995	CETP阻害剤 (脂質異常症)	欧州	フェーズ1	自社	
MP-124	PARP阻害剤 (脳梗塞急性期)	米国	フェーズ1	自社	
MP-136	PPAR 作動剤 (脂質異常症)	欧州	フェーズ1	自社	

効能追加

治験コード/製品名 (一般名)	薬剤分類 (予定適応症など)	地域	開発段階	起源	備考
MCI-9038 (アルガトロバン)	抗トロンピン剤 (ヘパリン起因性血小板減少症(HIT))	欧州	申請準備中	自社	
	(HIT患者での経皮的冠動脈インターベンション(PCI))	欧州	申請中 (2009年4月)		

3. 導出品の開発状況

治験コード/製品名 (一般名)	薬剤分類 (予定適応症など)	地域	開発段階	導出先
FTY720 (フィンゴリモド塩酸塩)	スフィンゴシン1リン酸受容体作動剤 (多発性硬化症)	米国、欧州	フェーズ3	スイス:ノバルティスファーマ
TA-1790 (アバナフィル)	PDE5阻害剤 (勃起不全)	米国	フェーズ3	米:ヴィーヴァス
		韓国	フェーズ2	韓:チョンウェイ
T-0047 (フィラテグラスト)	細胞接着阻害剤[4 7/ 4 1阻害剤] (多発性硬化症)	欧州	フェーズ2	英:グラクソ・スミスクライン
TA-7284	SGLT2阻害剤 (糖尿病、肥満)	欧州、米国	フェーズ2	米:ジョンソン・エンド・ジョンソン
MKC-242	セロトニン1A作動剤 (不眠症)	米国	フェーズ2	米:メディシノバ
TA-2005 (カルモテロール)	長時間作用性 2刺激剤 (喘息、COPD)	欧州	フェーズ2	伊:キエージー
MKC-231	神経新生促進剤 (うつ病 / 不安障害)	米国	フェーズ2	米:ブレインセルズ
Y-39983	ROCK阻害剤 (緑内障)	日本	フェーズ2	日:千寿製薬
T-0128	I型DNAトポイソメラーゼ阻害剤 [DDS製剤:カンプトテシン誘導体] (悪性腫瘍)	欧州	フェーズ1	伊:メナリーニ
sTU-199 (テナトプラゾール)	プロトンポンプ阻害剤 (胃食道逆流症)	欧州	フェーズ1	仏:ネグマ(シテム)
MP-412	チロシンキナーゼ阻害剤 (悪性腫瘍)	米国	フェーズ1	米:アヴェオ
TT-138	3作動剤 (頻尿 / 尿失禁)	米国	フェーズ1	米:メディシノバ

4. 2008年度第3四半期決算発表時点(2009年1月29日)からの変更点

治験コード/製品名 (一般名)	薬剤分類 (予定適応症など)	前回発表時点	2009年5月8日現在
MCI-9038 (アルガトロバン)	抗トロンピン剤 (HIT患者での経皮的冠動脈インターベンション(PCI))	欧州フェーズ3	申請中 (2009年4月)
MP-136	PPAR 作動剤 (脂質異常症)	なし	欧州フェーズ1
アンプラーグ (塩酸サルボグレラート)	5HT2受容体拮抗剤 (脳梗塞再発予防)	国内フェーズ3	削除 (開発中止)
MCI-225	ノルアドレナリン取込み阻害 + セロトニン3阻害剤 (下痢型過敏性腸症候群)	米国フェーズ2	削除 (開発中止)
MKC-733	セロトニン3作動剤 (便秘型過敏性腸症候群)	米国フェーズ2	削除 (開発中止)
	(夜間性胃食道逆流症)	米国フェーズ1	

5. 新製品開発状況補足資料 (2009年5月8日現在)

国内 新規化合物

TA-8317 / アクレフ (フェンタニルクエン酸塩)	フェンタニルを口腔内の粘膜から速やかに吸収させることにより、癌に伴う突発性の疼痛に対して鎮痛効果を示す頓用剤。欧米では既に市販されている。セファロン(米)より導入。2008年8月申請。
MCC-847 (マシルカスト)	ロイコトリエンD4受容体拮抗作用を有する経口呼吸器疾患治療剤。喘息でフェーズ3、アレルギー性鼻炎でフェーズ2。
MP-424 (テラプレビル)	C型肝炎ウイルスのプロテアーゼNS3/4A阻害による経口投与可能なC型慢性肝炎治療剤。ヴァーテックス(米)より導入。フェーズ3。
APTA-2217 (ロフルミラスト)	優れた抗炎症作用を有する、経口投与可能な呼吸器疾患治療剤。海外臨床試験で喘息とCOPD(慢性閉塞性肺疾患)の両方に対して有効性が認められている。ナイコメッド(スイス)より導入。喘息でフェーズ2/3、COPDでフェーズ2/3。
CNTO148 (ゴリムマブ)	抗TNF モノクローナル抗体。セントコア(米)より導入。皮下注射剤の関節リウマチ治療薬として、ヤンセンファーマ(株)と共同でフェーズ2/3。
FTY720 (フィンゴリモド塩酸塩)	スフィンゴシン-1-リン酸受容体モジュレーターで、海外ではノバルティス(スイス)により、多発性硬化症を対象にフェーズ3。国内ではノバルティスファーマ、三井製糖と共同で多発性硬化症を対象にフェーズ2。
MP-513 (テネリグリプチン)	DPP4酵素阻害により、食事摂取後のインスリン分泌を促進し、空腹時のインスリン分泌を促進しない、2型糖尿病治療剤。フェーズ2。
MP-214 (カリプラジン)	ドパミンD3/D2受容体拮抗作用を有する。ゲデオンリヒター(ハンガリー)より導入。統合失調症を対象にフェーズ2。
MP-435	補体成分C5a受容体拮抗作用を有する経口の免疫調節剤。関節リウマチ治療を対象にフェーズ1。
TA-6666	DPP4酵素阻害により、食事摂取後のインスリン分泌を促進し、空腹時のインスリン分泌を促進しない、2型糖尿病治療剤。フェーズ1。
TA-7284	SGLT2選択的阻害剤。腎臓における糖再吸収を阻害して血糖値を低下させる。糖尿病でフェーズ1。

国内 効能追加

<p>献血ヴェノグロブリン - IH (ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン)</p>	<p>(免疫グロブリンG2欠乏症)申請中。 (多発性筋炎・皮膚筋炎(希少疾病用医薬品指定))申請中。当局の指示により、ステロイド治療抵抗性の多発性筋炎・皮膚筋炎患者に対するヴェノグロブリンの有効性を確認するための追加臨床試験実施中。 (低・無ガンマグロブリン血症:用量追加) 日本感染症学会からの要望書を受け、適応外通知に基づき申請中。 (びまん型全身性強皮症)国内の臨床研究によって疾患の主要因である皮膚症状の改善に対してIVIgの有効性が見出され、海外においても有効性が報告されている。フェーズ3。 (重症筋無力症)国内において血液浄化療法群を対照としたフェーズ3。</p>
<p>レミケード (インフリキシマブ(遺伝子組換え))</p>	<p>(関節リウマチ:用法・用量の変更)メトトレキサートで効果不十分な関節リウマチ患者を対象に、レミケードの増量効果を確認するためのフェーズ3を実施し、2007年9月申請。 (乾癬)欧米で実施された検証的試験で尋常性乾癬、乾癬性関節炎に対し、レミケードが有用であることが確認され、欧米で承認済み。国内においても乾癬患者を対象に2008年2月申請。 (強直性脊椎炎)欧米で実施された検証的試験で強直性脊椎炎に対し、レミケードが有用であることが確認され、欧米で承認済み。2008年6月希少疾病用医薬品指定。2008年9月申請。 (潰瘍性大腸炎)欧米で実施された検証的試験で潰瘍性大腸炎にもレミケードが有用であることが確認され、欧米で承認済み。国内においても潰瘍性大腸炎患者を対象にフェーズ3。 (クローン病)レミケードの増量効果を確認するため、維持療法中に効果不十分となった患者を対象にフェーズ3。</p>
<p>バリキサ (バルガンシクロビル)</p>	<p>(移植後のサイトメガロウイルス感染) 2008年6月申請。</p>
<p>セレジスト (タルチレリン水和物)</p>	<p>(口腔内崩壊錠:剤型の追加) 2008年7月申請。</p>
<p>モディオダール (モダフィニル)</p>	<p>(閉塞性睡眠時無呼吸症候群)2008年5月に共同開発会社のアルフレッサファーマが申請したが、当局との相談の結果、追加データ取得のため、追加臨床試験フェーズ3を準備中。</p>
<p>ラジカット (エダラボン)</p>	<p>(筋萎縮性側索硬化症(希少疾病用医薬品指定))フェーズ3。</p>
<p>メインテート (ピソプロロール)</p>	<p>(慢性心不全)欧州で実施された大規模臨床試験(CIBIS 試験)でNYHA ~ 度の慢性心不全患者の延命効果を高めることが明らかにされた。国内では慢性心不全の効能追加のための臨床試験を実施し、2006年4月に申請した。その後当局との相談の結果、追加臨床試験が必要となりフェーズ3。</p>
<p>バズクロス (メシル酸バズフロキサシン)</p>	<p>(重症難治症例:用量の追加)(敗血症・肺炎球菌)注射用ニューキノロン系抗菌製剤。フェーズ3。</p>
<p>コレバイン (コレスチミド(JAN))</p>	<p>(2型糖尿病)フェーズ2。 (高リン血症)フェーズ1。</p>

海外 新規化合物

MCI-196 (コレステラン(INN))	陰イオン交換樹脂。欧米で腎透析患者における高リン血症を対象にフェーズ 3。日本では、高コレステロール血症治療薬として製品名コレバイン®で販売中。
MP-146	2006年11月にクレハ社から導入した経口の球状吸着炭。慢性腎臓病患者対象に欧州、北米、南米においてフェーズ 3。日本では製品名クレメジン®で他社が販売。
TA-6666	DPP4酵素阻害により、食事摂取後のインスリン分泌を促進し、空腹時のインスリン分泌を促進しない、2型糖尿病治療剤。米国でフェーズ 2。
TA-5538	選択的NK-1(サブスタンスP)受容体拮抗剤。過活動膀胱を対象に欧州でフェーズ 2。
MCC-135 (カルダレット)	急性心筋梗塞患者における虚血再灌流後の心筋細胞内Ca動態を改善することにより、心機能、及び予後の改善治療剤。欧米でフェーズ 2。
MCC-257	神経栄養因子の分泌促進及び作用増強による糖尿病性神経障害治療薬。米国でフェーズ 2。
MT-2832	2008年7月にサイトクロマ(カナダ)から導入。ビタミンDシグナル伝達を強力に活性化すると同時に、ビタミンDの不活性化をつかさどる酵素CYP24の阻害作用をあわせもつ新しいタイプのビタミンD誘導体。カナダにおいて慢性腎不全患者を対象に二次性副甲状腺機能亢進症でフェーズ 2。
MCI-186 (エダラボン)	世界初の脳保護剤(フリーラジカル消去剤)。脳梗塞急性期を対象に欧州でフェーズ 1。 日本では製品名ラジカット®で販売中。
TA-5493	p38 MAP キナーゼ阻害作用により、TNF などの種々のサイトカイン産生を抑制し、抗炎症作用を示す。欧州で関節リウマチ、乾癬を対象にフェーズ 1。
MP-513 (テネリグリブチン)	DPP4酵素阻害により、食事摂取後のインスリン分泌を促進し、空腹時のインスリン分泌を促進しない、2型糖尿病治療剤。欧米でフェーズ 1。
GB-1057 (人血清アルブミン(遺伝子組換え))	遺伝子組換えヒト血清アルブミン。米国で安定化剤でフェーズ 1。
TA-8995	CETP阻害により、HDL-Cを増加させLDL-Cを低下させる脂質異常症治療剤。欧州でフェーズ 1。
MP-124	PARP酵素阻害により神経細胞の障害保護作用を示す。米国・カナダで脳梗塞急性期を対象にフェーズ1。
MP-136	PPAR 作動剤。欧州において脂質異常症でフェーズ 1。

海外 効能追加

MCI-9038 (アルガトロバン)	(ヘパリン起因性血小板減少症(HIT))ドイツ、オーストリア、スウェーデン、デンマーク、ノルウェイ、オランダ、アイスランド、イタリアの8カ国で承認取得。欧州の他国への申請を準備中。
	(HIT患者での経皮的冠動脈インターベンション(PCI))欧州で申請中。

導出品

FTY720 (フィンゴリモド塩酸塩)	スフィンゴシン1リン酸受容体に作用することにより、リンパ球をリンパ組織に留まらせる。導出先のノバルティスファーマが欧米を中心に多発性硬化症の患者を対象にフェーズ3。
TA-1790 (アバナフィル)	即効性で、副作用の少ない勃起障害治療剤として創製。米国でヴィーヴァスによりフェーズ3。韓国でチョンウェイによりフェーズ2。
T-0047 (フィラテグラスト)	白血球が炎症部位に浸潤する過程を抑える細胞接着阻害剤。同じ4インテグリン受容体をターゲットとするモノクローナル抗体である多発性硬化症治療剤生物製剤「タイサプリ(一般名ナタリツマブ)」(バイオジェンアイデックおよびエラン)の使用患者さんによる有害事象により、米国食品医薬品局(FDA)が予防的な手段として臨床試験を中断していたが、2006年にタイサプリの販売再開が承認された。T-0047の臨床試験はグラクソ・スミスクラインによって欧州ほかでフェーズ2を再開した。
TA-7284	SGLT2選択的阻害薬。腎臓における糖再吸収を阻害して血糖値を低下させる。ジョンソン・エンド・ジョンソンにより欧州・米国で糖尿病、肥満を対象にフェーズ2。
MKC-242	セロトニン1A受容体の作動薬で、依存性が生じる可能性が低く即効性が期待される不安症やうつ病などの精神障害治療剤。米国メディシノバで不眠症を対象にフェーズ2。
TA-2005 (カルモテロール)	喘息とCOPD(慢性閉塞性肺疾患)の治療用薬で、選択的、早期作用性、長時間作用性2刺激剤。欧州でキエージーによりフェーズ2。
MKC-231	神経新生促進剤。米国でブレインセルズによりフェーズ2。
Y-39983	血管平滑筋を弛緩させるROCK(Rho-キナーゼ)阻害作用をもつ薬剤。国内で千寿製薬によりフェーズ2。
T-0128	新規カンプトテシン誘導體(活性本体)に高分子輸送体を結合させたプロドラッグ。効率的に腫瘍組織に到達させるDDS技術を利用した抗癌剤。欧州でメナリーニによりフェーズ1。
sTU-199 (テナトブラゾール)	国内で開発していたTU-199の光学異性体で、ネグマ(仏)へ導出。欧米で実施されたフェーズ1試験のPK/PDにおいて、長い血中濃度半減期より1日1回投与で夜間における優れた胃酸コントロールが確認され、早期の症状改善や治癒が期待されている。子会社のシデムが胃食道逆流症を対象に、欧州でフェーズ1。
MP-412	同クラスの抗癌剤の中でも、固形癌に対しより高い効果が期待される。米国でアヴェオによりフェーズ1。
TT-138	3受容体作動作用を持つ頻尿・尿失禁治療剤。米国でメディシノバによりフェーズ1。

< 参考 > 主要医療用医薬品の解説

レミケード (2002年5月発売) 【薬効】抗ヒトTNF モノクローナル抗体 (関節リウマチ、活動期クローン病、パーチェット病による難治性網膜ぶどう膜炎)

炎症性サイトカインであるTNF をターゲットとした抗TNF 抗体で、早く強力な効果と、1回の投与で2カ月間効果が持続するという点が特長である。関節リウマチでは、関節破壊を抑制することが確認されている。2007年1月にパーチェット病による難治性ぶどう膜炎の効能が追加され、同年11月にクローン病に対する維持療法が承認された。

オリジン：(米)セントコア

ラジカット (2001年6月発売) 【薬効】フリーラジカルスカベンジャー (脳保護剤)

我が国で開発された世界初の脳保護剤 (フリーラジカルスカベンジャー) であり、脳梗塞急性期の患者における神経症候、日常生活動作障害、機能障害 (退院時の後遺症の程度) を改善する。脳梗塞の3つの主要病型 (ラクナ梗塞、アテローム血栓性脳梗塞、心原性脳塞栓症) いずれにも適応がある。発症後24時間以内に投与を開始し、投与期間は14日以内。

アンブラーグ (1993年10月発売) 【薬効】5-HT2ブロッカー (抗血小板剤)

閉塞性動脈硬化症 (ASO) など慢性動脈閉塞症に対する治療薬 (経口抗血小板薬) である。セロトニンにより増強される血小板凝集、血管収縮、血管平滑筋細胞増殖を抑制することにより慢性動脈閉塞症に伴う潰瘍、疼痛、冷感等の虚血性諸症状を改善する。特に側副血行路の血流を改善する。2007年8月に高齢者にも服用しやすい小型化錠が承認された。

ウルソ (1962年7月発売) 【薬効】肝・胆・消化機能改善剤

本剤の主成分ウルソデオキシコール酸 (UDCA) は、古くから消化器症状の改善に用いられてきた熊胆 (クマノイ) が薬効の起源であり、ヒト生体内に存在する胆汁酸の一つである。本剤は肝細胞を保護する作用をもち、慢性肝疾患・C型慢性肝疾患における肝機能の改善、胆石の溶解等の効能をもつ。

セレジスト (2000年9月発売) 【薬効】脊髄小脳変性症治療剤

脊髄小脳変性症による運動失調に対し、甲状腺刺激ホルモン放出ホルモン (TRH) が有効であることは既に確認されていたが、これまでは注射剤のみであった。自社技術によりTRHを誘導体化し、経口投与を世界で初めて可能にした。

タナトリル (1993年12月発売) 【薬効】アンジオテンシン変換選択性阻害剤 (高血圧症治療剤)

確実な血圧降下作用および高い臓器保護作用を有しながら、この種の薬剤に一般的な副作用である空咳の発生頻度が少ない。2002年には日本で初めて1型糖尿病に伴う糖尿病性腎症への効能を追加した。

ヘルベッサ (1974年2月発売) 【薬効】カルシウム拮抗剤 (狭心症・高血圧症治療剤)

世界110カ国以上で使用されている代表的なカルシウム拮抗剤。血圧降下作用に加え、心拍数を抑えて心臓の負担を軽減し、冠血管拡張作用により酸素供給を増加させる。狭心症や高血圧症において心臓をやさしく保護する効果がある。

デパス (1984年3月発売) 【薬効】精神安定剤

国内で最も汎用される抗不安薬。強力な抗不安作用に筋緊張緩解作用、鎮静・催眠作用を併せ持つため、心身症、神経症だけでなく、腰痛症、頸椎症、筋収縮性頭痛、うつ病ならびに睡眠障害にも効果が認められている。

ヴェノグロブリン-IH (1992年1月発売) 【薬効】血漿分画製剤 (液状・静注用人免疫グロブリン製剤)

国内の献血血液を原料として製造された人免疫グロブリン製剤。免疫グロブリンの持つ4つの作用 (オプソニン作用、毒素やウイルスの中和作用、免疫溶菌作用、抗体依存性細胞傷害) により、抗菌薬と併用することで重症感染症に対する効果を発揮する。

タリオン (2000年10月発売) 【薬効】アレルギー性疾患治療剤

抗ヒスタミン_{H1}作用の発現が早くみられ、アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、皮膚疾患に伴うそう痒に即効性を発揮。一方で、眠気の発現頻度が低い。2007年3月に口腔内崩壊錠の剤形追加が承認され、7月に発売した。

オリジン：宇部興産 開発：共同

メインテート (1990年11月発売) 【薬効】選択的₁遮断剤 (高血圧症・狭心症・不整脈治療剤)

世界85カ国以上で使用されている代表的な₁遮断剤。極めて高い₁選択性と良好な薬物動態を示し、高い有効性と安全性とともにエビデンスに基づいた心保護効果を有する。

オリジン：(独)メルクK G a A

< 参考 > 主要医療用医薬品の解説

リブル (1988年11月発売)【薬効】プロスタグランジンE1製剤

世界初の静注用プロスタグランジンE1のDDS(ドラッグ・デリバリー・システム)製剤。血管に直接作用し拡張させることにより慢性動脈閉塞症、糖尿病における皮膚潰瘍等の末梢循環障害を改善する。DDS化によりPGE1の治療上の有用性を最大に引き出し、投与時のデメリットを最小化することに成功した。

サアミオン (1988年6月発売)【薬効】脳循環・代謝改善剤

脳循環・代謝改善作用を有する薬剤。脳梗塞後遺症の治療薬として処方されている。1998年に厚生省によって行われた再評価において、有用性が再確認されている。また、「脳卒中治療ガイドライン2004」において、脳梗塞慢性期の治療薬として推奨されている。

オリジン：(米)ファイザー

オメプラゾン (1991年4月発売)【薬効】プロトンポンプインヒビター (消化性潰瘍、胃食道逆流症治療剤)

胃酸分泌の最終過程であるプロトンポンプの働きを阻害することにより、強力が持続的に胃酸分泌を抑制する。世界初のプロトンポンプインヒビターである。消化性潰瘍、十二指腸潰瘍、胃食道逆流症に優れた効果をもつ。さらに、2007年5月に非びらん性胃食道逆流症が、8月にヘリコバクターピロリの二次除菌療法に係る用法用量追加が承認された。オリジン：(英)アストラゼネカ

ノイアート (1987年6月発売)【薬効】血漿分画製剤 (血液凝固阻止剤)

国内の献血血液を原料とした人アンチトロンビン製剤。人アンチトロンビンを高純度に含有するDIC治療剤である。トロンビンをはじめ幅広くセリンプロテアーゼ活性を阻害することにより強力な抗凝固作用を発揮する。

テオドール (1984年4月発売)キサントシン系気管支拡張剤

気管支拡張剤として気管支喘息、COPD(慢性閉塞性肺疾患)に広く用いられる。成分のテオフィリンには気管支拡張作用と抗炎症作用を含め多彩な薬理作用を発揮することが知られており、我が国の喘息治療ガイドラインにおいて使用が推奨されている。またその他の喘息治療薬と比べて薬価が安いことからコスト・ベネフィットに優れている。

ガストローム (1993年12月発売)【薬効】胃炎・胃潰瘍治療剤

服用後ほとんど吸収されず、胃粘膜を直接覆って保護する薬剤。重大な副作用や他剤との相互作用がない。胃炎では単剤でH₂ブロッカーと同等の効果を示す。胃潰瘍ではH₂ブロッカーとの併用で治癒率を向上させるというエビデンスが、2007年4月に胃潰瘍診療ガイドラインに反映され、H₂ブロッカーとの併用剤として推奨された。

フルカリック (2003年1月発売)【薬効】ビタミン添加高カロリー輸液

3室構造の輸液バッグを実現し、世界ではじめて糖・アミノ酸・電解質液に総合ビタミン剤を配合させた高カロリー輸液剤。ビタミン剤の入れ忘れの防止とともに、混注作業を不要とし、安全性と利便性を向上させた。

開発：テルモとの共同

ノバスタン (1990年6月発売)【薬効】選択的抗トロンビン剤

化学合成された選択的抗トロンビン剤。1990年6月に上市され、「慢性動脈閉塞症における四肢潰瘍、安静時疼痛ならびに冷感の改善」、「脳血栓症急性期に伴う神経症候、日常生活動作の改善」、「先天性アンチトロンビン(AT)欠乏患者における血液体外循環時の灌流血液の凝固防止」に使用されている。2008年7月に「ヘパリン起因性血小板減少症(HIT)型における血栓症の発症抑制」についても効能を取得した。海外では、2000年に米国FDAにより「ヘパリン起因性血小板減少症(HIT)における血栓症の予防及び治療」の効能・効果が承認され、以来、海外9カ国において同効能・効果で承認されている。

ミールビック (2005年12月発売)【薬効】麻しんおよび風しんの予防

麻しんと風しんの予防接種が同時に行え、接種者の負担が軽減できる乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン。麻しんおよび風しんの予防接種率の向上が期待される。

製造：阪大微生物病研究会

その他

1. 株式の状況

発行済株式数

	2008年度末	2007年度末
期末発行済株式総数	561,417,916	561,417,916
期末自己株式数	252,197	202,957
期末発行済株式数	561,165,719	561,214,959
期中平均自己株式数	225,436	100,832
期中平均株式数	561,192,480	438,768,161

配当金推移

	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度(注1)	2008年度(注2)	2009年度予想(注2)
1株当たり年間配当金(円)	17	20	24	26	28	28
配当性向(%)	26.7	32.0	29.1	33.2	37.6	36.9

(注1) 配当金は、田辺製薬の中間配当金(13円)と田辺三菱製薬の期末配当金(13円)を用いている。また、配当性向は田辺三菱製薬の下期の当期純利益からのれん償却額およびHCV訴訟損失引当金繰入額を除いた利益と期末配当金から算出している。

(注2) 配当性向は、当期純利益からのれん償却額およびHCV訴訟損失引当金繰入額を除いた利益と年間配当金から算出している。

大株主の状況

順位	株主名	2008年度末		2007年度末		
		持株数 千株	持株比率	(順位)	持株数 千株	持株比率
1	三菱ケミカルホールディングス	316,320	56.34%	(1)	316,320	56.34%
2	日本トラスティ・サービス信託銀行	28,293	5.04%	(4)	12,122	2.16%
3	日本マスタートラスト信託銀行	25,355	4.52%	(2)	22,007	3.92%
4	日本生命保険	16,268	2.90%	(3)	15,875	2.83%
5	三菱東京UFJ銀行	12,089	2.15%	(5)	12,089	2.15%
6	ザチエースマンハッタンバンク エヌエイロンドンエスエルオムニバス アカウント	9,232	1.64%	(6)	9,993	1.78%
7	ニプロ	8,030	1.43%	(7)	8,030	1.43%
8	東京海上日動火災保険	5,218	0.93%	(8)	5,218	0.93%
9	みずほコーポレート銀行	4,333	0.77%	(10)	4,333	0.77%
10	資産管理サービス信託銀行	4,215	0.75%	(11)	4,148	0.74%

所有者別株式数分布状況

	2008年度末			2007年度末		
	株主数 名	株式数 千株	構成比	株主数 名	株式数 千株	構成比
金融機関	72	113,941	20.33%	78	99,619	17.78%
外国法人等	380	72,756	12.98%	350	88,521	15.80%
個人・その他	10,930	30,342	5.41%	10,693	29,770	5.31%
その他の法人	239	341,051	60.85%	238	341,008	60.85%
金融商品取引業者	44	2,383	0.43%	37	1,508	0.27%
合計	11,665	560,473	100.00%	11,396	560,426	100.00%
単元未満株式の状況	-	944	-	-	991	-

* 1単元の株式数は1,000株

(注) 個人・その他には、自己株式(2008年度末238千株、2007年度末202千株)を含む。

外国人持株比率

2002年度末	2003年度末	2004年度末	2005年度末	2006年度末	2007年度末	2008年度末
19.82%	22.26%	30.14%	31.18%	36.21%	15.80%	12.98%

2. その他関連データ

従業員数(就業人員数)推移

(単位:人)

	2004年度末	2005年度末	2006年度末	2007年度末	2008年度末	2009年度末 予想
田辺三菱製薬				10,361	10,030	9,330
(単 独)	()	()	()	(6,266)	(5,715)	(5,190)
田 辺 製 薬	4,517	4,512	4,554			
(単 独)	(3,194)	(2,993)	(3,033)	()	()	()
三菱ウェルファーマ	5,917	5,902	5,907			
(単 独)	(3,546)	(3,575)	(3,488)	()	()	()

2008年10月以降のトピックス

2008年 10月1日	当社連結子会社であるMPテクノファーマと山口田辺製薬が合併し、田辺三菱製薬工場が発足
2009年 2月16日	医薬部外品「アスパラ®ドリンクDX」を新発売し、全国のガイドードリンコの自動販売機等で販売開始
2月26日	湿疹・皮膚炎などの皮膚トラブルに関して、セルフメディケーションによる適切な治療を啓発する「Think皮膚トラブル」キャンペーンの一環として、イメージキャラクターに黒木瞳さんを起用し、webサイト「ヒフノコサイト」を開設
3月2日	優れた抗炎症作用のある「フルオシノロンアセトニド」、抗生物質「フラジオマイシン硫酸塩」配合の湿疹・皮膚炎治療薬「フルコート®F」をリニューアル発売
3月24日	当社連結子会社であるバイファが製造、当社が販売している遺伝子組換え人血清アルブミン製剤「メドウェイ注5%」の製造販売承認取下げ、「メドウェイ注5%」および「メドウェイ注25%」の自主回収を決定
4月1日	グラクソ・スミスクラインが製造・販売している喘息・慢性閉塞性肺疾患(COPD)治療配合剤「アドエア®」(一般名:サルメテロールキシナホ酸塩・フルチカゾンプロピオン酸エステル ドライパウダーインヘラー)について、コ・プロモーションを開始
4月1日	エンヴィヴォ社が米国においてアルツハイマー病および統合失調症に伴う認知障害のある患者さんを対象に開発中の化合物「EVP-6124」について、日本を含むアジア地域における独占的研究・開発・販売及び製造権取得を発表
4月1日	鹿島工場を分社化し、田辺三菱製薬工場に統合
4月1日	当社連結子会社であるウェルファイドサービスが有する保険事業、金融事業、不動産事業及びサービス事業の4事業を、当社連結子会社である田辺総合サービスに承継
4月1日	当社連結子会社であるエーピーアイコーポレーションの発行済み株式の一部を三菱化学に譲渡し、当社の持分法適用関連会社となる
4月1日	長生堂製薬の100%子会社である長生薬品を当社連結子会社である田辺製薬販売に吸収合併
4月10日	「特定フィブリノゲン製剤及び特定血液凝固第Ⅸ因子製剤によるC型肝炎感染被害者を救済するための給付金の支給に関する特別措置法」に基づき、当該給付金支給等業務に要する費用負担の方法および負担割合について、厚生労働大臣より当社費用負担に関する基準が告示される

本資料に関するお問合せ

広報部

TEL 06-6205-5211 FAX 06-6205-5105